

2023 年度第 1 回教育課程編成委員会議事録
(観光科・鉄道科・エアライン科・テーマパーク科・ホテル科・ブライダル科・デュアル科)

日 時	2023 年 8 月 25 日(金) 13:00~14:20	場 所	バンケット実習室	進 行	湊	記 録	石神																																																				
出席者	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;"></th> <th style="width: 45%;">企業名・団体名</th> <th style="width: 25%;">名前</th> <th style="width: 25%;">業界</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td>一般社団法人日本旅行業協会 関東支部千葉県地区委員会</td> <td style="text-align: center;">武笠 克彦</td> <td>観光・鉄道</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>千葉都市モノレール株式会社</td> <td style="text-align: center;">今関 真治</td> <td>観光・鉄道</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>東武鉄道株式会社</td> <td style="text-align: center;">中島 隆博</td> <td>観光・鉄道</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4</td> <td>T-LIFE パートナース株式会社</td> <td style="text-align: center;">酒井 大之</td> <td>観光・鉄道</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td>株式会社旅行綜研</td> <td style="text-align: center;">石井 光彦</td> <td>エアライン</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">6</td> <td>株式会社ジャッツ 成田空港事務所</td> <td style="text-align: center;">鈴木 繁</td> <td>エアライン</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">7</td> <td>一般財団法人成田国際空港振興協会</td> <td style="text-align: center;">長森 克子</td> <td>エアライン</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">8</td> <td>株式会社エコーパートナーズ</td> <td style="text-align: center;">松井 哲至</td> <td>エアライン</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">9</td> <td>イオンキッズドリーム合同会社</td> <td style="text-align: center;">伊藤 弘美</td> <td>テーマパーク</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">10</td> <td>ホンダモビリティランド株式会社</td> <td style="text-align: center;">大塚 達也</td> <td>テーマパーク</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">11</td> <td>公益社団法人日本ブライダル文化振興協会</td> <td style="text-align: center;">佐々木 貴夫</td> <td>ホテル・ブライダル</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">12</td> <td>ホテルニューオータニ幕張</td> <td style="text-align: center;">風間 昭彦</td> <td>ホテル</td> </tr> </tbody> </table> <p>学校側 13 名 矢口、古川、北、澤田、小園、湊、松本、栗原、立石、石神、大久保、塚本、柳堀</p>								企業名・団体名	名前	業界	1	一般社団法人日本旅行業協会 関東支部千葉県地区委員会	武笠 克彦	観光・鉄道	2	千葉都市モノレール株式会社	今関 真治	観光・鉄道	3	東武鉄道株式会社	中島 隆博	観光・鉄道	4	T-LIFE パートナース株式会社	酒井 大之	観光・鉄道	5	株式会社旅行綜研	石井 光彦	エアライン	6	株式会社ジャッツ 成田空港事務所	鈴木 繁	エアライン	7	一般財団法人成田国際空港振興協会	長森 克子	エアライン	8	株式会社エコーパートナーズ	松井 哲至	エアライン	9	イオンキッズドリーム合同会社	伊藤 弘美	テーマパーク	10	ホンダモビリティランド株式会社	大塚 達也	テーマパーク	11	公益社団法人日本ブライダル文化振興協会	佐々木 貴夫	ホテル・ブライダル	12	ホテルニューオータニ幕張	風間 昭彦	ホテル
	企業名・団体名	名前	業界																																																								
1	一般社団法人日本旅行業協会 関東支部千葉県地区委員会	武笠 克彦	観光・鉄道																																																								
2	千葉都市モノレール株式会社	今関 真治	観光・鉄道																																																								
3	東武鉄道株式会社	中島 隆博	観光・鉄道																																																								
4	T-LIFE パートナース株式会社	酒井 大之	観光・鉄道																																																								
5	株式会社旅行綜研	石井 光彦	エアライン																																																								
6	株式会社ジャッツ 成田空港事務所	鈴木 繁	エアライン																																																								
7	一般財団法人成田国際空港振興協会	長森 克子	エアライン																																																								
8	株式会社エコーパートナーズ	松井 哲至	エアライン																																																								
9	イオンキッズドリーム合同会社	伊藤 弘美	テーマパーク																																																								
10	ホンダモビリティランド株式会社	大塚 達也	テーマパーク																																																								
11	公益社団法人日本ブライダル文化振興協会	佐々木 貴夫	ホテル・ブライダル																																																								
12	ホテルニューオータニ幕張	風間 昭彦	ホテル																																																								
議事録	<p>【全体会】13:00~14:20 司会進行：湊 今回の教育課程編成委員会は、観光科・鉄道科・エアライン科・テーマパーク科・ホテル科・ブライダル科・デュアル科で開催。</p> <p>1. 校長挨拶 ・観光業界自体はコロナ禍から回復傾向にあるが、観光業界を目指す学生募集状況に関しては未だに回復しておらず厳しい状況である。昨日は学内で前期授業等の振返りをする会議のほか、昨今の世間の多様化も含め、服装・身だしなみの規定を時代に合わせた内容にするか否か全職員で討議を行った。職員間でも意見が分かれ非常に興味深い内容であった。最近の各企業様の状況も踏まえ、観光業界に従事する業界人の在り方等、各企業様から様々な視点でご意見を頂きたい。</p> <p>2. 新任委員紹介 一般社団法人日本旅行業協会 関東支部千葉県地区委員会：武笠様 公益社団法人日本ブライダル文化振興協会：佐々木様 一般財団法人成田国際空港振興協会：長森様</p> <p>3. 23 年度 4~8 月時点 業界・企業の最新情報 ・一般社団法人日本旅行業協会</p>																																																										

関東支部千葉県地区委員会 武笠 克彦氏

観光業界について全般として2021年ごろより国内教育旅行は徐々に回復傾向にあり、海外に関しては次年度以降に回復するのではないかとみている。短期留学に関しては今年の3月から学校団体から問い合わせが増えている。ただし昨今の航空料金・円安の影響からアウトバウンドの需要は厳しい状態が続いている。インバウンドに関しては引き続き好調。中国団体旅行も解禁され更なる需要があることが予測されるが、問題点としては人員不足によりバス予約が取れない、宿泊に関しても人員不足により客室の稼働をあげられず、定休日を設けている宿泊設備もある。

・千葉都市モノレール株式会社 今関 真治氏

列車内のマスク着用は継続して多いが、6月にはeスポーツはなど1万人規模のイベントもあり、利用者数はコロナ禍から比較すると徐々に回復傾向になっている。昨今の問題点としては半導体不足・資源高騰などから修繕費・動力費があがっている。人員にはに関して大卒・専門卒に関しては当初の予定よりも採用できず、今まであまり実施していなかった中途採用を実施している。

・東武鉄道株式会社 中島 隆博氏

定期・定期外ともに増加傾向。スペースXの導入で日光・鬼怒川方面を含めた観光需要が増えてきている。車掌はコックピットスイートで販売や観光案内などを実施しており、今後車掌はドアを開閉する業務だけではなく、鉄道の仕事のありかたが変わってきている。ここ数年に関しては採用を増やす予定ではいるが長期的な人員に関しては自動運転やカメラ設置・遠隔で接客する等人員不足を根本的に解消する方向になると思われる。そういった中ではこれしかできない・これしかやりたくない等の人材ではなく様々な分野で活躍できる人材が必要となってくると思う。

・T-LIFE パートナース株式会社 酒井 大之氏

去年の水際対策緩和からコロナ前と同じくらいのお客様の旅行申込みがあるが、人員不足により対応できない状況が見られる。教育旅行において海外以外はほぼ回復。9月よりバス料金が価格見直しになる。一例をあげると近畿地方は1時間あたり下限料金7,390円となっており、関東もあがる予定。旅行会社としては費用があがっているが従業員の待遇向上・人材確保に努めたいと思っている。

・株式会社旅行綜研 石井 光彦氏

国内に関してはコロナ前と変わらず、海外に関して30~40%程に回復している。円安の影響もありインバウンドにとって利用しやすい状況。しかし国内旅行に関しては費用も上がり負担が大きくなっている。人員に関しては2割減と対応が難しくなっており、いろいろな媒体を使用し、人員確保に力を入れている。

・株式会社エコーパートナーズ 松井 哲至氏

成田空港では離発着数136%、日本人旅客数300%・外国人旅客数793%と増えている。11月には中国路線がさらに増える予定。貨物に関しては76%と減少。円安で輸入が大きく影響を受けている。人員不足に関しては特に保安検査場の人員不足によりに長蛇の列が出来ている。先日幕張メッセで合同説明会を実施し、500名の参加者中250名が成田空港へ見学に来た。そこから5名の採用に至った。次年度以降も実施する意向。

・株式会社ジャッツ 成田空港事務所 鈴木 繁

コロナ前はアウトバウンド、コロナ後はインバウンドが増えている。インバウンドの対応では以前より複雑な要望が増えている。旅行代金の値上がりにより、個人で航空券や宿泊等を予約する人が増えているが、それが主流になると旅行会社の役割が問われるようになる。採用は既卒メインで外国籍やシニア層が多い。

一般財団法人成田国際空港振興協会 長森 克子氏

空港インフォメーション業務に関して1日5500件の問い合わせがある等コロナ前に比べると空港利用客は6割以上戻っている。韓国からの利用者が多く、今後中国からの利用者が多くなると予測している。一方、成田空港の従業員数はコロナ前に比べると20%減少。2029年に第3滑走路が完成予定で益々利

用客が増える中人材不足をどう解消するかが課題。

・ホテルニューオータニ幕張 風間 昭彦氏

9月をもって開業30周年を迎える。コロナ前に比べると現在は9割以上回復している。残りの1割は企業の宴会利用等であるが、徐々に問い合わせが増えている。宿泊に関しては回復。物価高騰により宿泊・食事料金は値上げしているが、高額商品の方がお客様利用は増えている。人材に関してはコロナの3年半で人員は2割減。今後は自社の良い部分を残しつつ、選ばれる企業として変化できるものは変化し、新しい人材・中途採用も含め考慮したい。

・公益社団法人日本ブライダル文化振興協会 佐々木 貴夫氏

業界として多くの式場で婚礼数が回復しているが、少人数での開催が主流となった。婚姻届を出すカップルも減っている。ブライダルフェアを実施しても開催日数を調整、非接客部門の人員調整等を実施している。離職率についても今後学校と関係をもって改善できるようにしていきたい。

進行湊により閉会。

【分科会】14:10～15:30

【分科会】観光科、鉄道科

進行：立石が分科会を開会。

1. 2023年度カリキュラムの現状報告

<観光科>

・高校生の旅行業界への意欲衰退を鑑みて、24年度カリキュラムはコース名称を『トラベル・アウトドアコース』へと変更し、旅行目的地元(千葉)就職を希望する新たな学生層の獲得を目指す。

【学生】

・年初在籍 1年生 6名(内、2名休学) 2年生 5名

後期進級 1年生 5名(1名復学、1名退学) 2年生 5名(10月より業務研修者 1名)

【行事】

・9月 長生のBUBリゾート宿泊研修(グランピング施設体験 対象:1年生)

・9月 タイ(バンコク)旅行(対象:1.2年生)4泊5日

・1月 観光地研修(対象:2年生)1泊2日 伊勢・名古屋(個人手配)

【検定】

・6月実施 国内地理検定受験 1年生 4名初級受験(必) 4名合格、2年生 1名中級受験(任) 1名合格

・7月実施 世界遺産検定(任意) 1年生 1名 3級受験 1名合格

・8月実施中 国内旅程管理者研修 1年生 4名、2年生 4名受験中

・9月予定 国内旅行業務取扱管理者(任意) 1年生 4名、2年生 2名受験

<鉄道科>

【学生】

・年初在籍 1年生 23名(内、1名退学) 2年生 13名

後期進級 1年生 22名 2年生 13名(10月より業務研修者 2名)

【行事】

・5月 千葉都市モノレールの見学

・7月 鉄道イベントプロモーション(授業参加)の実施

千葉都市モノレール様との業務協定により、施設見学や授業参加等を実施。今後、イベント運営の補助として観光科・鉄道科1年生を派遣予定。

・8月 小湊鐵道トロッコ列車 車内販売実施。

・9月 京成電鉄 宗吾参道車両基地見学予定。

・2月 観光地研修(対象:2年生) 場所等は後期授業内で企画、作成のため未定

【検定】

- ・6月実施 国内地理検定受験 1年生 22名受験(必) 4名合格
- ・9月予定 国内旅行業務取扱管理者(任意) 1年生 7名、2年生 1名受験

武笠氏:トラベル・観光業を目指す学生が減っているのは業界としても問題だと捉えている。

そういった意味でも地元就職するという点でコース名称を変更したというのは良いのではないか。

立石 :最近の接触した高校生だと旅行を仕事とするイメージがない学生が多いように感じる。

高校生に対して職業の認知を高めるべく、学校との連携を強めていきたい。

古川 :添乗員になりたい、という学生はいるのでコロナ禍を経て修学旅行も復活しているこの状況に期待しつつ、徐々に認知度を高めていきたい。

武笠氏:添乗員業界でも高齢化が課題となっており、業界の待遇・地位が良くなるために自治体・県・物産協会等からも話が出ている。そういった内容を伝えるように発信していきたいと思う。

立石 :鉄道業界として人員削減などの話が出ていたが、今後は多種の仕事に対応すべきか。

中島氏:駅・乗務員の仕事は機械化が進むので、技術よりの職種が大事。保守・メンテナンスは機械化が進んでも人が行う仕事なので、今後はそういった技術をもつ人員が大事だと考えている。

今関氏:専門学校に求めるのは「専門性」なので、ある程度の専門知識は必要だと考えている。

立石 :現状では「整備」に関する専門知識及び教鞭をとれる講師がいないため難しい。

中島氏:鉄道科の中にも整備のコースがあると良いと思う。都内にもそういった学校が存在する。

立石 :学校内での設備で「サービス」は教えられる環境を作れたが、整備にまつわる設備は用意が出来ず、カリキュラムとしても何を用意するのが良いのか分からないが今後に向けて検討が必要。

2. 就職活動状況について

・観光科 5名在籍中 5名内定 内定率 100%

→旅行関連 3名、空港関連 1名、鉄道関連 1名で内定。

・鉄道科 13名在籍中 7名内定 内定率 53.8%

→鉄道関連 3名、空港関連4名で内定。残った学生も就職活動は行っており、引き続き指導していく。

石井氏:最近の若年層には「添乗員・ツアーコンダクター」が通じないことがあるため、周知させるのが大変。また、高齢化問題やコロナ禍での離職が進む中で職場環境を整えることが重要である。

酒井氏:就職も大変だが現状の人数が少ないのが大変であり、旅行の職業を知らない世代が入ってきて、千葉という場所を上手く活かしながら学生に来てほしいと思う。

立石 :地元で働きたい学生も地元で旅行会社を見ないため仕事を紹介出来ないことが多い。

酒井氏:今年度の採用について大卒を中心に行ったが、傾向としては専門学生卒の方が仕事出来る。

立石 :大卒と専門学校卒を比較するとどのような状況なのか？

武笠氏:日本旅行に関してだと大卒採用が多い。旅行会社によってビジョンが違う為一概には言えないが、2年間という限られた時間の中でカリキュラムを考えたときには添乗員が分かりやすいと思う。

立石 :鉄道業界についてはどうか。

中島氏:当社としては高卒、専門卒が多く、大卒が続く。離職率で考えると大卒・専門卒・高卒となる。

専門学生は鉄道業界が好きで多いが、大卒は様々な経験を積んでくることが多いため離職率は高くなる。会社としては辞めない人材を採用したいので専門学校にはそれを求めたい。

立石 :最近は大学への進学が多くなっていると把握しており、2年より4年の方が時間があるのが利点になっている。その分短い時間で専門知識を学ぶというのが専門学校の特徴である。また、大学に入学しやすくなっているのも人数減少に関わるのではないか。

中島氏:専門学校(国際トラベル)の学生が辞めずに長く働く印象が付けさせることが就職には大事。

立石 :今後、専門学校として採用人数を増やすためにどのような人材がいると嬉しいか。

今関氏 :大学生と専門学校を一緒に採用枠で考えるので、比べると大卒が良いと思ってしまうが、専門卒は即戦力として考えるため、枠は違うと思う。

立石 :大学生と今後戦っていくために必要な能力は何か。

今関氏 :個人の資質によるが、形通りの回答ではなく自分の言葉で話せるかどうか重要。

3. 24年度カリキュラム内容について

・24年度については1年次は50分授業、2年次より90分授業に移行される。
そちらに伴い、科目及び内容を精査・変更した。(別紙、履修科目一覧を参照)

【観光科新科目】

- ・「アウトドア実務Ⅰ～Ⅳ」→グランピング施設での職業をイメージして、受付・宿泊に関わる内容を学ぶ。
- ・「SNSプロモーションⅠ.Ⅱ」→企業内でのSNS利用を意識し、SNS利用の注意と使用方法、メリットデメリット等を学び、実際に投稿して様々な内容を学ぶ。
- ・「Web・動画制作Ⅰ.Ⅱ」→1年次に学習した内容を経て、動画作成や写真技術・構成等を学ぶ。
- ・「卒業制作Ⅰ.Ⅱ」→学生が観光・旅行企画を作成し、募集・予約・販売までを行うことを目的とし、その過程で生ずる様々な内容を体験として学ぶ。(予定)

【鉄道科新科目】

- ・「卒業制作Ⅰ.Ⅱ」→学生が鉄道での企画を作成し、その実施や付随する業務を体験として学ぶ。(予定)

中島氏:「アウトドア実務」は何を学ぶのか。

立石 :グランピング施設での業務を想定して、チェックイン対応や料飲・飲食関連事項を学んでいく。

古川 :またキャンプ等も想定してロープワークやテント設営なども行っていきたい。

立石 :旅行関連で考えてもアウトドアの知識や、小中学校の自然学習などでも応用できる知識を学ぶ。

中島氏:「SNSプロモーション」は何を学ぶのか。

立石 :普段から使っている学生も多いが、改めて使い方やSNSのメリット・デメリット等を教えていく。

中島氏:鉄道業界でも、地域や沿線の魅力を発信する動画を作成したり、地域と連携して企画したりをSDG'sの観点から取り入れることが多いので、鉄道科カリキュラムにも取り入れてみてはどうか。
これからはPCや動画のスキルを持った人材が必要な要素になってくると思う。

武笠氏:添乗資格は1年次に取得するのか?また、併せて国内管理者は2年次に取得するのか?

立石 :1年次夏頃に旅程管理、2年次に国内管理者を取得することを目指したカリキュラムにしている。

武笠氏:旅行会社に就職する学生に求められるものは地理の内容も嬉しいが、入ってから実務を積みこむことが多いので、現場で求められるのは専門卒、大卒ではなく人間性等が重要である。
千葉県内のグランピング施設の話だとコロナ禍が終わり特別感や地元を意識した内容でないと残っていくのが難しい。

4. その他

「多様性」による身だしなみの規制について

立石 :学生の「多様性」や服装・頭髪指導についてはどうか。

石井氏:難しい問題だが、個人的には相応の年齢により身だしなみが整ってくる傾向にあるため、専門学校時代には自由でも良いかと思う。画一的に作られた写真や笑顔は企業としては好ましくない。

酒井氏:大学生も、就活時には許された中での自由を把握しているイメージだが、職業的にはお客様目線が必要なため、各自が状況で判断できるなら良いと思う。最終的にはお客様の判断なので、そこを理解したうえでの身だしなみが必要。普段は自由でも良いと思う。

武笠氏:添乗員は個性を出すのも良いか、セールスなどは万人に受けるような清潔感や身だしなみが大事。目指す業界・職種などに応じて変えても良いかもしれない。

立石 :鉄道についてはどうか。

今関氏:基本的には酒井様と一緒に考えて、いざというときにしっかりと出来れば良いと思う。

中島氏:基本は自由で良いと思う。そこも含めて学生の考える力がどこまであるかを判断していければ。但し、鉄道業は公共事業に近いのである程度のちゃんとした身だしなみが必要。メリハリを自身で考えることが出来れば良いと思う。

立石により分科会を閉会。

【分科会】エアライン科

司会進行:栗原

1. 就職状況について

- ・23 年度エアライン科 2 年生 18 名在籍中 16 名内定(内定率 88.9%)
- ・23 年度全学科 2 年生 178 名在籍中 147 名内定(内定率 82.6%)

2. 後期のカリキュラムについて

【1 年生】

- ・後期から就職活動がスタートするため、改めてマナーや言動について指導

【2 年生】

- ・早期実習 10 名/18 名 学校に残る学生のフォローとモチベーション維持
前回の分科会で、手話やパソコンに力を入れてはどうかとの意見を頂いた。
手話とパソコン、社会人常識を身に付ける授業も行っている。
- ・業界だけでなく、社会生活に必要な要素を取り入れたカリキュラム
⇒ 英語・中国語・韓国語・電話対応・ビジネスコミュニケーション・パソコン等

3. 2024、2025 年度入学生カリキュラムについて

- ・24 年度より 2 コース編成(キャビンアテンダント/エアポート)
- ・24 年度は 50 分授業、25 年度以降は 90 分授業に変更
- ・エアポートコースは旅客とカーゴを1つにまとめたコース

松井氏:入社して苦戦するのは語学。離島便のお客様は半分日本人で残りは欧米系と中国籍。中国籍のお客様も増えてきている。中国籍のお客様対応は通常の倍かかる。片言でもいいので中国語が出来るると良い。語学の資格というよりは会話の経験が重要。

旅客スタッフは危険物に関するテストを受けるがなかなか受からない。貨物だけでなく旅客でも活用できるような危険物の授業があればいい。

長森氏:インフォメーション業務は報告書を作成する機会がある。文章として表現できることが大切。外国籍のスタッフだと文章を書くのが厳しい場合がある。的確な内容の報告書作成を望んでいる。

→ 栗原:ビジネス文書の授業を取り入れてもいいのではと思う。

湊 :外国籍の受験者には文章力の確認をしているか?

→ 長森様:履歴書、筆記試験、面接の流れで確認をしている。

2 年後期で CS コンテストを実施予定。審査員としてお越し頂くことは可能か?

→ 長森様:旅客案内スタッフが来ることは可能かも。

長森氏:身だしなみについては見直しをしながら進めている。当社の基準だと、ネイルはシンプルなもの。アップルウォッチ OK。

ITHB 卒業生が高校生の職業体験 3 日間を担当し、高校生の反応がよかった。

鈴木氏:旅行業界は新卒にこだわっていない。新卒ではなく中途の方が戦力になっている。

報告書は word より手書きの方が思いが伝わりやすい。感想などは必要なく、箇条書きと時系列で報告書を作成するようアルバイト学生に伝えている。

栗原 :実習後の学生のレポートはひらがなが多く内容が拙かった。

湊 :2 年後期は業務研修に合わせて授業を減らし、企業実習を 120 時間入れている。

→ 鈴木様:現在は実習を受け入れてないが、検討の余地はある。インバウンドは 8 月、9 月に多いので、その時期と実習時期が合えばいい。場数を踏む経験をするには、空港実習は良い。

4. エアライン業界の魅力とは

栗原 :エアライン科募集が厳しい状況。年々入学者が減っている。コロナ禍を経て、エアラインの魅力が減っているのではないかと思う。人材募集をする際にどのような打ち出し方をされているか、また

自社の魅力をどのように伝えているのか教えて欲しい。

松井氏: 自社についてどのように上手く発信していくかが課題。大手企業は名前を聞いたらすぐにわかるが、当社にはそれがない。航空業界はコロナの打撃を受け、航空機利用が zoom になったりした。今後もそれが続くと思っていたが、航空機利用は増えている。そのため、絶滅しない業種であるという安心感を伝えている。Z 世代は安心感を求めている。安定性を求める若者は多いと感じる。

長森氏: コロナで業界は落ち込んだが、戻る時にはすごい勢いで戻る業界である。成田空港従業員数は 2029 年新滑走路完成時に 7 万人になると言われている。AI ではなく自分がしたことでお客様が喜び、それが周りにも良い影響を与える。それがインフォメーション業務の魅力。

矢口 : 滑走路見学を高校生の早い時期に実施したい。どの分野かで悩む高校生向けに空港見学会を実施したい。

鈴木様: 新卒採用は実施していない。ジャッツという企業名は誰にも知られていない。他業種からの転職者を積極的に採用している。空港で働いてみて初めて、色々な業種や働き方があると分かったという学生アルバイトからの声を聞いた。広く浅くが良いと思う。空港内の他の職種に移ることも可能。

5. 身嗜みについて

栗原 : 皆さまの会社に面接に行った場合、茶髪は×か？

松井氏: GH は茶髪 OK。GS はサービスを提供する側であり航空会社の基準に則った髪色にするよう伝えている。面接の段階では、茶髪 = ×ではない。中には身だしなみが緩い企業もある。当社はパートナー企業の規定に従っている。

長森氏: 面接時に茶髪であっても、入社後は会社の規定に合わせてもらうことを伝えている。NAA の意向もある。

鈴木氏: 当社の面接では、受験者 10 名と面接官 5 名の 15 分間で実施。短い時間での面接は、見た目で判断すると思う。サービス業のクレームは、見た目(～のような髪色の人、～のような爪の人)から入る人が多い。

矢口 : 企業側はこのように見ているということを学生に伝え、学生がどのように考えるかが大事。

長森氏: 柔軟な考え方が必要。

進行栗原により閉会

【分科会】テーマパーク科

石神より分科会を開会。

前回の振り返り及び教育課程編成委員全体会情報共有

1. 前回の振り返り

- ・LGBT ゲストへの理解。お子さま職業体験の際、一部職業での男女制服の固定観念の廃止。社内研修等で LGBT の方に対するの取り組みをどうしていくか動き出している。
- ・コロナ禍が収束しつつある状態での各企業対応(マスク着用等)のガイドライン共有。業界動向。
- ・企業毎の SNS 利用状況等。

2. 今年度夏季業界動向および運営状況について

伊藤氏: スーパーハイシーズン・ミドルシーズンという価格帯を本年度より取り組んでいる。

お客様のご利用日を分散してご利用頂けるように価格帯を広げている。
大塚氏:テーマパークであるとともにレースが絡んでいるのでレース開催時は一般のお客様を受け入れないという時を作っている。それもお客様に根付いてきているかと感じる。
金額の値上げを実行した。暑さなどもありお客様自体は想定より来ていない。
近場のテーマパークよりも遠出して選ばれるテーマパークかどうかと思うところがある。

3.【夏季企業実習】

大塚氏:実習生は休むことなくとても頑張ってくれたかと思う。実習期間中にレースの開催もあり鈴鹿らしさを感じていただけたらいいかと思ったが、実習生全体を通して挨拶が足りていないのではないかと感じる。

当たり前のことを理解していると思い伝えることをしなかったが、当たり前のことを伝えないといけないのではないかと思うようになった。全体を通して実習生が頑張っていることは理解できた。

伊藤氏:受入した学生3名とも高いモチベーションで実習に臨んでくれた。

時間をかけてトレーニングをすることが時期的に難しかったが、しっかりとした対応が出来ており素晴らしく感じた。実習生の頑張っている姿が周りにいい影響を与えている。

【実習手帳】

例年実習の企業評価を紙の実習手帳より今年度は Google Class room を使用したデジタル化した手帳のテスト運用を行った。大塚氏・伊藤氏共に利用面に関しての指摘は無かったが、準備や修正に例年より時間を費やしてしまったため、実習が終了してからのタイムラグ・返信期限に関して改善のご意見を頂いた。今年度の反省を活かし、次年度実習後の企業評価をすぐに頂けるように改善を行う。

4. 各企業における髪型等の規定等動向に関して

伊藤氏:髪色に関しては明るい髪色を認めることになっている(髪色・7番→9番)

髪色で人員が増えたかどうかわかりかねるが、今年度は人員確保が大変だったという声が出ていない。

大塚氏:社内で髪色変更する動きはあるが会社の規則として固まっておらず、髪色は7番までを基準に現在は指定している。髪色や服装は学生には将来の事を考えて今後の生活を過ごしてもらえ方がいいと思う。自由にするというのは、いいことだと思うが将来どうしたいというのを考えて動くというのが大事な所だと思う。そこは学校で指導するのがベストではないかと思う。

5.その他

・新たな試みとしテーマダンスを通じた表現力を高めるカリキュラム検討していることを共有した。

【分科会】ホテル科・ブライダル科・デュアル科

小園より分科会を開会。

1. 2023 年度カリキュラムの現状報告

<ホテル科> 大久保

【授業科目】

- ・24 年度カリキュラムは 23 年度と大幅な変更なし。 ※24 年度生 2 年生から 90 分授業
- ・24 年度より 2 コース編成の名称変更。

23 年度:ホテル科 (ホテルコース/国際ホテルコース)

24 年度:国際ホテル科(ホテルコース/英語コース)

【行事】

- ・6 月に 1 年生全員参加で幕張メッセでの大型ケータリングに参加した。
※夏期実習前の実務経験としていい経験となり満足度も高かった。
- ・リゾートホテル視察(軽井沢方面)(11月/1泊2日)
- ・海外研修 ベトナム(ダナン)(12月/3泊5日)

【検定】

- ・メンズスタイルアップ検定を男性学生に任意受検として 21 名中 11 名の受検 10 名合格。

- ※昨年の必須受検合格率 35%から大幅アップ。
- ・セルフメイクメイク検定:H1 女子全員合格
- ・ホテル実務技能認定試験(7月):初級は合格率 100%達成することが出来た。
- ・現状1年生の TOEIC 受験者が少ない為、年度内に2回受験の推奨の徹底をする。
※英語に対してのモチベーションが高い学生が多く授業外での課題を行う学生が多い。
※レベルの低い学生に対して引き続き工夫をする。

【英語コースについて】2024年度より ※23年度は国際ホテルコース

- ・定員10名の少人数制。 ※現在2名の受付あり
現在の国際ホテルコースで行っているレベル分け英語クラス(3クラス)のAクラスを対象とする。
- ・英語を生かして仕事したい・外資系ホテル希望の学生が対象。
- ・英文履歴書対策講座(英語面接対策)、イングリッシュコミュニケーション(ネイティブ職員対応)、おもてなしイングリッシュ(日本文化を英語で伝える)を新規科目として導入予定。
- ・企業実習は、夏季はホテルコース同様に実施、冬季は海外インターンを取り入れ検討中。
※23年度国際ホテルコースの学生は12月にオーストラリアインターンシップ予定(1名)

【クラス運営】

- ・1年生のモチベーションが高く、自ら進んで行動できる学生が多い。
- ・2年生の早期就職内定したことにより授業意欲低下・出席率低下がみえる。

【募集】

- ・ホテル(ブライダル)見学会 12月予定

風間氏 :海外に行けるようになったことは学生にとっても刺激になるのでよい。

:コース名に英語と付くにはわかりやすく差別化するにはよい。

:見学会は業界を盛り上げるためにも是非協力をしたい。

小園 :ニューオータニ幕張様は知名度も高く協力していただけるとありがたい。

佐々木氏:卒業制作などで科をまたぐなど合同で行っても良いのでは。

<ブライダル科> 塚本

【授業科目】

- ・2023年度新規科目 2年生対象「接客手話」
1年前期でユニバーサルマナーを学んでおり、実技が伴って興味を持って受けている。
- ・「イベントプロモーション」2年生/リアルウエディングに向けて始動中(10月実施)
- ・2024年度BSコースは、ヘアメイク、衣装、フラワー、フォトの授業拡大。
新規科目として2年次にブライダルネイルを導入予定。

【研修/行事】

- ・4月/オリエンテーション(BARN&FOREST148、アニヴェルセル柏)
行き先を変更しての実施。学生の反応は良く、卒業生の講話内容も良かった。
- ・5月/神社視察(乃木神社)
行き先を変更しての実施。神社+婚礼会場も併設しており、総合的に見学ができた。
- ・6月/ステイマナー研修(浦安ブライトンホテル東京ベイ)
コロナ前と同様の内容で実施することができた。
- ・10月/リアルウエディング
- ・11月/リゾートウエディング視察(軽井沢ハヶ岳方面/2泊3日)
- ・12月/海外研修(グアム/3泊4日)
- ・2月/ブライダル見学会(1年生)、卒業制作(2年生)

【検定】

- ・ドレスコーディネーター検定 17名受検/13名合格 合格率76.5%

- ・ユニバーサルマナー検定 2 級 60 名受検/56 名合格 合格率 93.3%
- ・秘書検定 1 年生受検者が 60 名中 57 名 意欲的に受検した。

佐々木氏:リアルウエディングはアニヴェルセルだけでなく他企業からの声も上がるようになるかもしれないので先を見据えるとよい。

風間氏 :就職をすると敬語や話し方などで大変な思いをすることがあるのでカリキュラムに『話し方入門』があるのはよい。

小園 :リアルウエディングは募集活動にも良い影響になるので力を入れていきたい。

<デュアル科> 柳堀

【授業科目】

・夜間部 ホテル・ブライダル科/デュアル科 ホテル・ブライダルコース 2科運営
23 年度入学生より選択科目制をとり入れ、1年後期 4 コマ(4 科目)を選択

前期アンケートの実施。結果は大きな偏りもなくバランスのよい振り分けとなった。

【ホテル選択 12/21 57% ブライダル選択 6/21 29% ハイブリッド 3/21 14%】

前期にホテル・ブライダル関係なく、全員が幅広く授業を行い、業界ガイドや就職の授業でより将来像のイメージに結び付ける事が出来た。

【研修/行事】

・オリエンテーション&ステイマナー(TDR)4月実施

同時に行う事で、友人関係の構築や授業前に業界を知るきっかけとなり、モチベーションの高い状態で前期の授業を開始。

・リゾートホテル視察(軽井沢方面)(11月/1泊2日))

【検定】

・ユニバーサルマナー検定【5月14日】 20/21 95.2%

・TOEIC【6月17日】 5名受験

・ホテル実務技能認定試験(初級)【7月8日】 12/12 100%・

検定取得に対して意欲的な学生が見られた為、後期も検定実施を積極的に促していきたい。

風間氏 :夜間部の学生に 90 分授業は集中力が続くか不明だが幅広いチャレンジは大切。

:夜間部の学生は就職後の離職率が低く素晴らしい。

佐々木氏 :どの企業もパソコンの能力が課題となっているので通年で学べるのは良い。

SNS での集客力をもっと参考にしてもよいのでは?

2. 就職活動状況について

<就職> 澤田

【内訳】

・ホテル科 62 名在籍中 60 名内定 内定率 96.8%

・ブライダル科 両コースあわせて 48 名在籍中 38 名内定 内定率 79%

・夜間部 9 名在籍中 8 名内定 内定率 89.8%

澤田 :就職活動を先決内定から選択制に変更したが大きなトラブルはなく時代にあった運営ができた。

:就職活動のエリアが神奈川や大阪、京都、沖縄など分散する傾向だった。

:履歴書のペーパーレス化は他業種では取り入れているがホテル・ブライダル業界ではどうか?

風間氏 :個人的にはアリだが、職場での周知や理解度を考えると難しい部分も大きい。

進行小園により閉会

日時	2024年3月4日(月) 13:00~15:30	場所	Nタワー1階 バンケット実習室	進行	湊	記録	塚本
----	-----------------------------	----	--------------------	----	---	----	----

出席者		企業名・団体名	名前	分科会
	1	一般社団法人日本旅行業協会 関東支部千葉県地区委員会	武笠 克彦	観光・鉄道
	2	千葉都市モノレール株式会社	今関 真治	観光・鉄道
	3	T-LIFE パートナーズ株式会社	酒井 大之	観光・鉄道
	4	株式会社旅行綜研	石井 光彦	観光・鉄道
	5	株式会社ジャッツ 成田空港事務所	鈴木 繁	エアライン
	6	一般財団法人成田国際空港振興協会	長森 克子	エアライン
	7	株式会社エコーパートナーズ	松井 哲至	エアライン
	8	公益社団法人日本ブライダル文化振興協会	佐々木 貴夫	ホテル・ブライダル
	9	ホテルニューオータニ幕張	風間 昭彦	ホテル・ブライダル
	10	【オンライン】イオンモールキッズドリーム合同会社	折原 恭子	テーマパーク
11	【オンライン】ホンダモビリティランド株式会社	大塚 達也	テーマパーク	
<p>学校側 13 名 矢口、古川、北、澤田、小園、湊、松本、栗原、立石、石神、大久保、塚本、柳堀</p>				

議事録	<p>【全体会】13:00~14:00 司会進行：湊 今回の教育課程編成委員会は、ホテル科・ブライダル科・観光科・鉄道科・エアライン科・テーマパーク科・デュアル科で開催。</p> <p>1. 校長挨拶 就職は、潤沢な求人をいただき活動している。 募集に関しては、24 年度入学生(日本人)は今年度以上に減っており、厳しい状況。 留学生は今年度入学生 40 名に対して 24 年度入学生は 200 名以上とコロナ前より急増している。 各企業様の状況を踏まえ、業界から求められていることを理解したうえで、学校運営に活かしていきたい。</p> <p>2. 観光業界における 23 年度総括と 24 年度予測 ・一般社団法人日本旅行業協会 関東支部千葉県地区委員会：武笠 克彦氏 別途資料参照</p> <p>3. 各企業様(各業界)における 23 年度総括と 24 年度のご予定 ・株式会社旅行綜研 石井氏 昨年度まではワクチン・コロナ対策の仕事を請け負っていたが、今年度はようやく本来の派遣業務が回復。国内旅行の回復は早く、4~10 月は 100%を超える勢いだった。 海外は、添乗員派遣も含めて 4 コロナ前対比で 48~50%ほどであった。 24 年度は海外旅行がどの程度回復してくるかが重要。</p>
-----	---

クルーズをターゲットに新たな取り組みを進めている。

- ・T-LIFE パートナース株式会社 酒井 大之氏
インバウンド旅行・教育旅行・法人旅行の三本柱のうち、インバウンド旅行が盛んであった。教育旅行も活動していたが、法人旅行が回復せず厳しい状況。2024 年度も同様の状況が続くと見込まれる。
また、2025 年開催予定の大阪万博は、入場料 1,000 円(小・中・高のみ)で入場できることから、修学旅行に組み込むことも提案しているが、京都・奈良が人気のため、模索検討している。
昨年 8 月以降バス運賃3割増で運営している。

- ・千葉都市モノレール株式会社 今関 真治氏
鉄道業界全体として、コロナ前 2019 年対比 92%の収入となっており、回復傾向にある。
当社も 96%回復しており、2024 年は 98%まで回復する見込み。
優しいサービスを目指す取り組みとして、11 月に駅のフリースペースにグランドピアノを置いて、人と音楽でにぎわう場を作る試みなども行っている。12 月には、京成バスと一緒にモノレールの車両基地見学を実施した。
地震など災害時に対するタイムラインを作り、社員間の情報共有を行った。

- ・株式会社エコパートナーズ 松井 哲至氏
成田空港は、利用者・発着回数・利用回数含めて、2019 年対比 80~90%の回復傾向。
日本人旅行者数は、物価高騰や円安の影響もあって、戻ってきていない。
貨物便は、129%と増加傾向にある。ただし、貨物量は減少傾向。
人手不足は解消されてなく、2 月幕張メッセで合同説明会を実施したところ、37 社/305 名のうち 8 割の 20 代が集まった。グランドスタッフ・ハンドリングの人員が間に合っていないことが理由で、定刻遅れが多くなっている状況。ANA・JAL の採用は増えている。
2024 年度は、外国籍の方もしっかり育成していきたい。現在、インドネシアの大学と提携して、日本語学校を通じて 37 名の受け入れをしている。イスラム教徒が多いため、服装などお客様に理解してもらえない現状もあるが、今後も留学生の受け入れ態勢を整えていきたい。

矢口氏:日本人と外国人との交流はあるのか。

松井氏:グランドハンドリングでは、チーム制で動くため、日本人と外国人が一緒に働ける環境を作っている。また、日本語を勉強する機会も設けている。

- ・株式会社ジャッツ 成田空港事務所 鈴木 繁氏
成田空港では、23 年度はお客様数は回復した。コロナ前と比べると、日本人のツアー客・外国人・ビジネスマンが減った。ビジネスマンが利用する路線は、羽田シフトになった。
スタッフ数も戻りつつあるが、グランドスタッフが足りてなく、今後若い人材が必要。

- ・一般財団法人成田国際空港振興協会 長森 克子氏
成田空港では、海外に行く日本人が5割を切っている現状で、国内線のほうが戻ってきている。
韓国・台湾・インドネシアなど東南アジアは戻ってきている。中国は 5 割に達しず戻ってきていない。
人材としては求人募集に対しての応募が少なく厳しい。外国籍の方も、なかなか採用につながらない現状はあるが、応募数は増えてきている。

- ・ホテルニューオータニ幕張 風間 昭彦氏
2023 年度は、コロナが明けて、全国旅行支援・TDR 若年層の利用・宿泊中心の利用者などもあり、好スタートを切ることができた。宿泊部門は、コロナ前対比 104%の収入。
秋以降、一般企業も回復。また、声優のトークショーイベントを行ったところ、1 カ月前に宣伝し、即完売だった。趣味など好きなことに対してお金を費やす傾向が見受けられる。
24 年度以降の訪日外国人の動向が不透明である。今後海外に向けてどう宣伝していくかが課題。
人材は不足している状況。新卒採用は規定数取れているが、離職率は年々増えている。
レストランは集まるが、宿泊や調理部門は人材不足で、和食は特に若い職人がいない。
外国人の採用も定着しないので、アプローチに模索している。

- ・公益社団法人日本ブライダル文化振興協会 佐々木 貴夫氏：
ブライダル業界は、一昨年から昨年の春までは、コロナで我慢していた方々の利用があり、戻りつつあった。業界全体としては、婚姻数 49 万組と減少傾向にあり、結婚式を挙げる方も約 6 割となっている。また、首都圏は回復傾向にあるが、地方は厳しく、格差が大きく苦戦している状況。
招待者にも変化が見られ、親族と親しい友人のみを呼ぶことが多く、招待客減少傾向が見受けられる。経済産業省の「インバウンド需要獲得のための官民一体の訪日プロモーションの推進事業」に伴う台湾、香港でのブライダルフェアに日本のウエディングのブースを設けて参加した。目的を持って日本の婚礼文化を海外に発信していこうという取り組みを今後もしていく。
また、人材派遣として、ミャンマー・モンゴル・カンボジアなどの現地に日本語学校を作って取り組んでいる会社も増えてきている。
2024 年度以降、会員同士をつなぐ機会を設けて学校側と企業側の共有できる場を提供していきたい。

進行湊により閉会。

【分科会】14:10～15:30

【分科会】観光科、鉄道科
進行：立石が分科会を開会。

司会進行：立石により開会

学生数報告 23 年度

観光科 1 年生：5 名／2 年生：5 名 計 10 名

鉄道科 1 年生：22 名／2 年生：13 名 計 35 名

1. 23 年度振り返り

- ・コロナ禍以前と同様の課外授業や行事の実施が可能となったことで、クラス内の纏まりもより強くなった。
- ・検定試験の状況
サービス介助士(観光 4/4 名 合格率 100%、鉄道:20/22 名 合格率 90.9%)
AMADEUS 4/5 名(観光科のみ実施 合格率 80%)
その他 世界遺産検定、地理検定、秘書検定など
全体を通して各種検定にチャレンジする学生が多く、例年に比べて合格率も高めとなっている。

2. 2024 年度入学生について

- ・観光科トラベル・アウトドアコース(J)⇒ 入学者数 9 名(今後 1 名追加予定)
新たなカリキュラムとして『アウトドア実務』の実施(1 年後期より)
海外研修旅行は 2 年次に実施予定(任意)

〈現状の課題：観光科〉

アウトドア関連の就職及び授業内容の精査 ⇒ 授業については次年度新規実施後に再度確認
武笠氏：業界の人員不足・高齢化等が課題となっているが、入学する学生はどのような業種を目指して来るのか？また旅行の形態として、アウトバウンドではなく外から千葉へ来ていただくようなプロモーションなどを外部の会社と連携して行うことが多いので、柔軟な考え方を持つ人材が求められている。

立石：業界の勉強をする前の仕事のイメージが少ない状態で入学する学生がほとんどだと感じる。
また、現状も就職に関しては旅行以外を選ぶ学生が昨今は多いと感じる。

武笠氏：浅く広く業界を知り、あとは学生の自主性に任せて希望を確認するので良いのではないかと。
学校として業界の人数(学生)が減った要因はどのように考えているか。

立石：元々が多くの分野を見ていた学科から細かく分散し各分野に特化した結果と、旅行の仕事に憧れをもつ学生も少ないと感じる。

石井氏:添乗においても、学生の年齢と社会人として想定している年齢層が合っていないかもしれない。
また、東京に比べて千葉の出発も少なく、なかなか学生に経験させることが出来ない。
酒井氏:例えば1年前期は細かく分けずに様々な分野を勉強することは出来るのか。
古川 :東京の大手の専門学校はトラベル科は募集を停止している現状を鑑みて、当校でも危機感をもっている。

〈現状の課題:鉄道科〉

実技・実務をカリキュラム内で優先した結果、資格試験の少なさが目立っている。
今関氏:今現状では、サービス介助士以外の資格試験は業界として聞かない。
立石 :語学関連はどうか。
今関氏:現場でしゃべれないと困る状況が少なく機械による翻訳もあるので、あればいいと思う。
それよりも専門学校に求めるものは駅員や運転士なので現状のまま問題はないかと思う。

3. 観光・鉄道業界の魅力発信について

企業連携の実施 観光→旅行総研様、阪急交通社様と授業において実施
鉄道→千葉都市モノレール様と授業及び行事において実施

武笠氏:連携とは実際にどのようなことをしているのか。
立石 :観光について、授業での業界知識の講義、企業見学などを実施している。
:鉄道について、企業で実施したイベントの手伝いを行い地域連携を学んだ。
武笠氏:学生達がイメージしている内容なのか?特に最近は旅行の企画というより地域連携等の中で話し合いを行い、それを企画にすることが多いので旅行というイメージではないのではないか。
立石 :最近では昔の旅行のイメージより自治体や地域の方々との連携が多いか?
武笠氏:2年という短い時間の中で、本来はある程度時間を掛けて作っていく内容を学生に体験してもらうことが学生達にとって魅力あるのかは分からないが、難しい課題だと思う。
武笠氏:旅行会社の求人現状どの程度あるのか。
立石 :10数社程度で、コロナ禍で減ったがまだマイナビ・リクナビ等には掲載されている。
ここ数年だと大手企業は勿論だが、地元の市役所で働きたい等の学生も出てきており、学科名を変更したことにより、旅行だけが希望で入学している学生だけではないと感じる。
今関氏:最近だと大学で東京に行っていた人たちが地元に戻って仕事をしたいという話を聞く。
立石 :酒井様の会社(T-LIFE)では何か企業と学校との連携という話はあるか?
酒井氏:営業職だと学生と一緒にというのは難しい。真似事は出来るが魅力的でないかもしれない。
旅行の仕事として市役所や地域の観光課を目指すイメージがあっても良いのでは?
今関氏:山武市では千葉大等の色々な大学とコラボをしており、地域を盛り上げようとしているので、そういったリサーチを行うのもアリなのではないか。

進行:立石により閉会。

【分科会】エアライン科

進行:栗原が分科会を開会。

1. 2023年度振り返り※栗原

- ・コロナ禍以前と同様の課外授業や行事の実施が可能となったことで、クラス内の纏まりもより強くなった。
- ・語学習得や資格取得に向けた動きが活発
TOEIC 平均 130 点 UP(1年生4月から1月までのベストスコア平均)
ディプロマ試験 受験者:4名、合格者4名(100%) *1名欠席
AMADEUS 受験者:13名、合格者12名(92%)
その他 手話検定、秘書検定

3. 2024年度入学生カリキュラムについて※栗原

- ① キャビンアテンダントコース(CA) ⇒ 入学者数 2 名
 - ② エアポートコース(GH、GS) ⇒ 入学者数 10 名(3 月 1~2 名増予定)
- 上記 2 コースにて運営を開始 *別紙履修科目一覧参照

- ・24 年度入学生の海外語学研修について、昨今の円安や物価高の影響により、当初予定の 3 週間から 2 週間に期間変更。(9/1 出発→9/15 帰着予定)
- ・24 年度より学科毎にスーツ着用日を設定。

栗原 :入社前に専門学校で習得しておいて欲しいスキルは何か。

長森氏:空港インフォメーションの観点から言うと、航空会社の 2 レターコードと空港・都市の 3 レターコード。サービス介助の車椅子対応など。

鈴木氏:第三外国語はむしろ必要ないケースもある。例として、南米系のコールセンターではスタッフがスペイン語が出来てしまうとお客様からの不要な要求が増え、逆に時間効率が悪くなることも。日本人のお客様からの過度なクレームを避けるために敢えて外国ネームの名札を着用する企業もある。

長森氏:インフォメーションでは名札を外すことにした。

松井氏:UR 事象が増えていることから、クレーム耐性のつくような演習授業があれば。

湊 :2 年次カリキュラムの卒業制作(CS コンテスト)では学生自身でクレーム対応を考えさせるような内容を検討している。

栗原 :クレーム事例の共有をお願いしたい。

3. 2025 年度新卒採用状況※松本

- ・新 2 年生 内定者:7 名(2/26 時点) 未内定者:6 名
- 内定者の大半が 10 月から早期実習

松本 :空港での人員不足を補うためにシニア採用をしているか。

長森氏:ファストレーンの案内業務等で 60~70 代が活躍している。

鈴木氏:成田空港開港当時に働いていた方々が現在 60~70 代。接客スキルが高く語学も堪能。成田近辺在住なので交通費がかからないのは採用側として好条件である。

4. 募集活動(エアライン業界の魅力)

- ・エアポート見学会実施(成田国際空港) 成田・茨城エリアをターゲット
- ・エアポート見学会実施(羽田国際空港) 都内・茨城エリアをターゲット
- 来年度は企業コラボを実施し、航空業界の魅力発信を行っていきたい。

進行:栗原により閉会。

【分科会】テーマパーク科

進行:司会進行:石神が分科会を開会

1. 2023 年度振り返り※石神

- ・各企業における髪型等の規定等動向に関して
- ・今年度実習状況に関して及び単位オンライン化に関して
- ・シーズンによる価格帯改定等各企業様の取り組み

2. 観光業界人材育成に関して

大塚氏:学校としての問題と企業に関しても問題があると思う。(社宅制度や賃金に関して)

企業の制度や研究をもっと知るべきかと思う。働いてから知ること多いかと思うが仕事内容を把握するだけではなく、企業としての事を研究することが大切かと思う。

一社を長く働くことよりも二社目をしっかりと頑張るという考え方も大切なのではないかと思う。

石神 :スキルのある人材がこれからは重宝される時代になってきているのかと思う。

折原氏:アルバイトが多いが卒業を待たずに辞めてしまうことが多い。

お客様にやさしい環境を作ることによってスタッフにも優しくなるというような環境を作れるようにしている。

これによって、感覚的ではあるが離職率が低くなってきているように感じる。

社員はがむしゃら感がまだあるが、給料面だけが大切なわけではなく仕事環境などを大切にしている人が増えているように感じる。

3. その他

・求人状況

伊藤氏:社員としてはアルバイトの採用がメインとなっている。

人員が増えてきて思うようなシフトに入れにくい時期もあったが、今現在は学生の卒業に伴い、人員の補充とともに人員を確保せずともこなせるオペレーションを行うようにしている。

仕事体験がメインな為人員確保が絶対。

平日の少ない客数の際にはスタッフ一人に対して何箇所かの仕事をこなすことが多くなってきている。

大塚氏:昨年度と今年度の違いは中途採用を頻繁に行っている。

契約社員は集まらず正社員としての募集を主に行っている。

海外の人材募集をしている。

業種によっては受けたいがすべての業務をこなすとなるとなかなか募集としての動きは難しい。

アルバイトに関してはマルチタスクというわけではないが、社員に関しては一人5~6ヶ所のアクションを運営できるように動いている。

年齢が若い時に多くの仕事を経験しているのは貴重である。

長谷川:マルチタスクは重要だが学生の中で一部分の知識の得意・不得意が激しい。

企業内でどのように得意分野を伸ばすといいか、不得意分野を補う指導をおこなっているかお伺いしたい。

折原氏:得意分野を伸ばす部分は大事だが、必要最低限の部分は補佐するようにしている。

大塚氏:折原氏と同感であるが、社内では適材適所を実施しているが屋外の業務など体力的に厳しい業務や経理業務など、年齢や状況に合わせたスキルを身に付けていけるように考えたい。

進行:石神により閉会。

【分科会】ホテル科・ブライダル科・デュアル科

小園より分科会を開会。

1. 2023 年度カリキュラムの結果報告

<ホテル科> 大久保

【授業科目】

・24 年度カリキュラムは 23 年度と大幅な変更なし。 ※24 年度生 2 年生から 90 分授業

・24 年度より 2 コース編成の名称変更。

23 年度:ホテル科 (ホテルコース/国際ホテルコース)

24 年度:国際ホテル科(ホテルコース/英語コース)

【行事】

・6 月に 1 年生全員参加で幕張メッセでの大型ケータリングに参加した。

※夏期実習前の実務経験としていい経験となり満足度も高かった。

・リゾートホテル視察(軽井沢方面)(11 月/1 泊 2 日))

・冬期実習:ホテルコース:(12~1 月)

- ・海外インターンシップ:国際ホテルコース@オーストラリア(12~1月)
- ・海外研修 ベトナム(ダナン)(12月/3泊5日)
- ・カクテルコンペティション(2月)

【検定】

- ・メンズスタイルアップ検定を男性学生に任意受検として21名中11名の受検10名合格。
※昨年の必須受検合格率35%から大幅アップ。
- ・セルフメイク検定:H1女子全員合格
- ・ホテル実務技能認定試験(7月):初級 合格率100%達成
(1月):初級 合格率100%達成 上級 合格者3名 合格率42%
- ・ホテルビジネス実務検定/H検(11月):2級 合格率65% (合格者26名/受験者40名)
- ・レストランサービス技能検定3級/HRS検定:合格率66% (合格者33名/受験者50名)
- ・TOEICは、年度内に2回以上の受験を推奨して多くの学生が受験して平均点も上がっている。
※英語に対してのモチベーションが高い学生が多く授業外での課題を行う学生が多い。
※来年度もレベルの低い学生に対して引き続き工夫をする。

【英語コースについて】2024年度より ※23年度は国際ホテルコース

- ・来年度2名入学予定
- ※GW後に後決めでホテルコースより英語コースに変更可能とする
- ・現在の国際ホテルコースで行っているレベル分け英語クラス(3クラス)のAクラスを対象とする。
- ・英語を生かして仕事したい・外資系ホテル希望の学生が対象。
- ・英文履歴書対策講座(英語面接対策)、イングリッシュコミュニケーション(ネイティブ職員対応)、おもてなしイングリッシュ(日本文化を英語で伝える)を新規科目として導入予定。

【クラス運営】

- ・1年生のモチベーションが高く、自ら進んで行動できる学生が多かった。
- ・2年生の早期就職内定したことにより授業意欲低下・出席率低下がみえたので就職後に役に立つことをテーマにして運営をシフトチェンジした。

【募集】

- ・ホテル(ブライダル)見学会 12月→佐倉・成田・茨城エリアをターゲット
- ⇒12月にホテル・ブライダル・エアライン合同見学会を実施
- 成田エリア開催で、成田空港見学とホテル見学(日航成田)に分かれ、ホテルではハウスキーピング体験とブライダルフェア(模擬挙式・模擬披露宴)のチョイス、体験後に全学科合流してホテルのレストランでクリスマスランチbuffetを堪能。非常に満足度の高い充実したイベントとなった。
(高校では期末テスト週間であったが、28名の参加者)

大久保:必要な英語力の変化について、都内個人海外利用も多く外資系はミーティングも英語であるため、仕事だけではなくコミュニケーションにも英語力が必要になっている。英語を楽しく授業に取り入れることで、英語をコミュニケーションレベルで話せる工夫が必要。

風間氏:当社では、航空業界の低迷により、近場の外語系大学や首都圏・地方の短大生によるホテルの受験者が増加傾向にあるとのこと。ホテル内非常用放送を英語などのAIを使用したものも用意している。業界的にインバウンドも増え英語の必要性が大きくなっているため、今までの英語の授業や実習にプラスして在学中から現場でも英語が活かせる機会を増やして生の英語に触れる機会を増やすのもいいと思う。

<ブライダル科>塚本

【授業科目】

- ・2023年度、2024年度授業科目の大幅な変更はなし。
BSコースは、ヘアメイク・衣装・フラワー・フォトの授業拡大。
2025年度2年生対象にWPコース「顧客心理」・BSコース「ブライダルネイル」授業導入予定。
- ・「イベントプロモーション」
2024年度 1/19リアルウエディング予定(アニヴェルセル柏)

【研修/行事】

- ・10月/リアルウェディング(校内)
30名程のゲストを招待し、数年ぶりの実施となった。
- ・11月/リゾートウェディング視察(軽井沢ハヶ岳方面/2泊3日)
ホテルウェディング・ゲストハウスなどリゾートならではのお話を聞くことができた。
- ・12月/海外研修(グアム/3泊4日)
4年ぶりの実施。文化や言語の違いを感じながら、視野の広がる機会となった。
- ・2月/ブライダル見学会(1年生)、卒業制作(2年生)
お世話になった先生方、親御様含めて85名の招待客を招き、集大成であるイベントとして見届けていただいた。

【実習】

- ・2025年度より、1年生後期の土日にブライダル企業での企業実習を実施予定。(授業は週4日制)

【検定】

- ・色彩検定 56名受検/40名合格 合格率71.4%
- ・BC技能検定3級 57名受検/48名合格 合格率84.2%(前年度:79%)
- ・BC技能検定2級(学科)6名受検/4名合格 合格率66%(前年度:100%)
※実技は、今年度受検者なし

【募集】

- ・ブライダル見学会→2/25(日) 新浦安アートグレイス
⇒昨年同時期にヒルトン東京お台場にて同イベントを実施。今年度は人気エリアのゲストハウスにて実施したが、現地集合・当日の悪天候の中、昨年度の35名を上回る46名の高校生が参加をし、在校生が企画演出した模擬挙式と模擬披露宴に対して大きな盛り上がりを見せていた。

塚本 :コロナウィルスが緩和された現在、婚礼業界の現状と今行っており組みなどありましたらお教えいただきたい。

佐々木氏:海外(香港)のお客様が日本で結婚式を挙げる傾向があり、沖縄・北海道・京都が特に多く、昨年度は年間約100件の実績あり。お客様との打ち合わせは海外エージェントを通して打ち合わせを行う。赤坂日枝神社で挙式を挙げる10%新郎新婦どちらかが海外の方であるため、英語も今まで以上に必要になる。《ブライダルツーリズム》
そのため、英語に関しては授業等で取り組まれているようなので、今後インバウンド婚などを知る機会や触れる機会を作ってみるのはいかがでしょうか。

<デュアル科> 柳堀

【授業科目】

- ・夜間部 ホテル・ブライダル科/デュアル科 ホテル・ブライダルコース 2科運営
23年度入学生より選択科目制をとり入れ、1年後期4コマ(4科目)を選択
- ・ホテル選択 12/21 57% ブライダル選択 6/21 29% ハイブリッド 3/21 14%
1年次に選択を行ったことによって、就職活動の幅を広げるきっかけとなった。
2年次は、より応用力を付けるため、4科目から最大7科目の選択を行う。

《ホテル科》

HRS 検定対策・Hotel English・中国語・フロントマネジメント・ソムリエ パーティンダー講座等
《ブライダル科》ブライダルファッション・フラワー・フォト・カラーコーディネーター等

【研修/行事】

- ・オリエンテーション&ステイマナー(TDR)4月実施
 - ・リゾートホテル視察(軽井沢方面)(11月/1泊2日))
- 業界研究を行う為、モチベーションが下がりやすい時期に任意でホテル視察を実施。
レストランで食事や、会場見学を行うことで前向きに参加できる機会となった。
8月:目黒雅叙園 12月:グランドニッコー東京台場 2月:ペニンシュラ東京

【検定】

- ・ユニバーサルマナー検定【5月14日】 20/21 95.2%
- ・TOEIC【6月17日】 5名受験
- ・ホテル実務技能認定試験(初級)【7月8日】 12/12 100%
- ・秘書検定:23年度 20名中 11名受験(55%) 31%UP
- ・BC検定:23年度 6名(BC検定授業選択者)中 4名受験【合格者3名:(学科合格3名 実技4名)】
- ・HRS検定:23年度 8名中 4名【合格者3名/受験者4名】
検定取得に対して意欲的な学生が見られた為、後期も検定実施を積極的に促進したため、昨年度より限定をした検定以外にも幅広く検定の取得を行った学生が多くみられた。
- ・H検定:23年度 20名中 9名受験(45%)22年度 0名
- ・手話検定:23年度 29名中 5名受験(17.2%)22年度 0名

【募集】

柳堀 :企業との新たな魅力作りの連携を行っていく。提案事項として2年間同じホテルで実習を行うことで、継続して働くことへの付加価値をつけられないか。募集活動の促進、早期離職を防ぐことにつながる。

風間氏:双方にとってメリットになる話であるため、現実的にできないことではない、早ければ今年の学生より取り入れていくことも可能。今後他校の現状と照らし合わせながら金銭面だけではなく、入学する学生への魅力をつくる。

2. 就職活動状況について

<就職> 澤田

2024年卒【内訳】

- ・ホテル科 61名在籍中 61名内定 内定率 100%
 - ・ブライダル科 両コースあわせて 48名在籍中 46名内定 内定率 95.8%
- 未内定者2名については就職非斡旋
- ・夜間部 ホテル科 9名在籍中 9名内定 内定率 100%

2025年卒【内定者内訳】

ブライダル科1名・エアライン科7名・鉄道科2名

2024年卒

全学科対象求人票:651件

2025年卒

全学科対象求人票:215件(3/1現在)

3. 2024年度入学生について

ホテル科 42名 / ブライダル科 57名 / 夜間部 7名(うちデュアル科4名)

前年度 ホテル科 (54名) / ブライダル科 (60名) / 夜間部 (21名)

進行小園により閉会

